

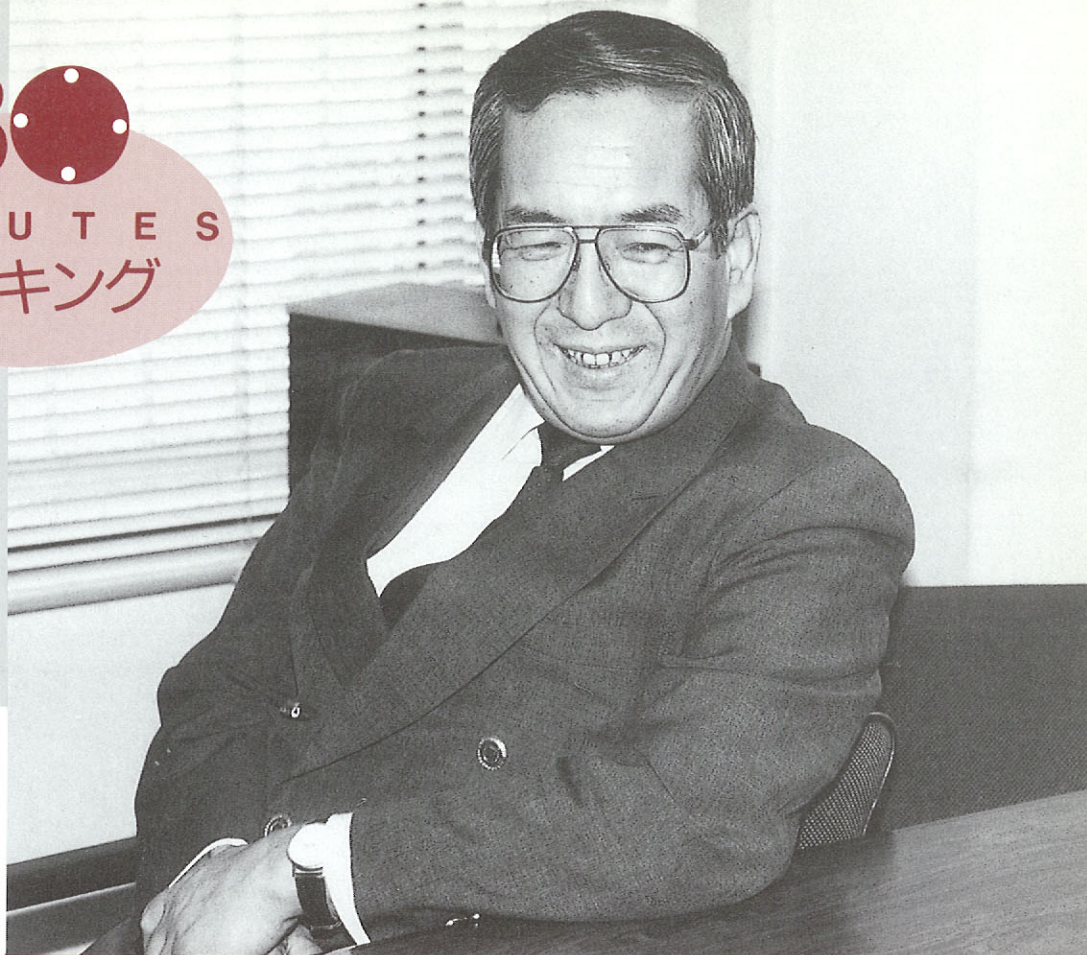


パルコ オータム・ファッションショー ('89.9.10)



オークス通り

30 MINUTES トーキング



◇熊本パルコ取締役店長 上村 富彦さん

プロフィール
昭和48年パルコ入社。千葉パルコ店長代行、松本パルコ店長を経て、昭和62年4月より現職。

ファッションレベルは
高いけれども、
それが映えるシーンが
もっと欲しいですね。

「感性と情報の集まるファッション基地」として常に若者文化をリードしてきたパルコ。三年前熊本市にオープン以来、高感度人間の注目を集めています。今回はその熊本パルコの店長・上村富彦さんに、熊本のファッションセンス・感性についてお話を伺いました。熊本の印象はいかがですか。

第一空港線のあの雰囲気がいいたいですね。よく中央からお客様がみえるんですが、どなたも絶賛されますよ。阿蘇の山々を眺めながら田園風景の中を通るあのルートは、熊本の印象をとっても良くしていると思います。

ただ、街の環境がちょっと荒削りだなと感じました。もっともこの二年間でずいぶん変わってきたと思いますが、緑が豊かで、県民の皆さんもそれを誇りにしていられる。しかし、余りにも恵まれた自然環境にあるため、かえってその良さを生かしてきつてないんじゃないでしょうか。

熊本城一帯の緑や白川河畔の自然をもっと利用して、生活をエンジョイなされたいのと思いますよ。

熊本のファッションセンスはどうですかね。大変レベルが高い。自分に合うファッションを知っていて、主体性のあるおしゃれを楽しんでいる。福岡よりもずっとセンスがいいですよ。それに比べて男性はあまりおしゃれじゃないな。ビジネスに関しても熊本の女性は優秀ですね。

それに、飛び付きの早さがすごい。ワサモンというんですか？ キャッチするのが速いですね。熊本の場合専門店のビジネスが大変しっかりしていて、売り手の側の感度もいいブランドものの取り組みも東京とほぼ同時ですよ。買う方も商品の良さをよく理解して、賢い買い方をされている。

ファッションの傾向を見ますと、ブランド指向のブランドの時代、コーディネートを楽しむスタイルの時代を経て、今はシーンをエンジョイするためのファッションの時代になってきているんですね。劇場性と言いますか、そのシーンにあったおしゃれを楽しむという。熊本にはこの劇場性が少し欠けているように思います。せっかくおしゃれをしても着ていくところがない。ファッションの映えるシーンが不足しているのでは？

熊本の街の環境が荒削りだとおっしゃいましたが、そういうことでしょうか。

トータルで街を見たときにデザイン性が感じられないんですね。都市機能都会性が欠けているように思っています。パルコの経営コンセプトの一つに、ファッション環境がファッションを育てるといいますが、やはりおしゃれをしたくなるような環境が必要なんです。オフィスビル一つにしても、もっとデザイン性のあるものがあってもいいし、お店も営業時間を長くし消費者の利便を図るとかの工夫が欲しいですね。

女性のファッションだけは群を抜いてレベルが高いが、お芝居やコンサートといった文化的な面がちょっと弱いようですね。街にはドラマを感じる劇場性、居住性、それにショッピングを楽しむバザールの要素、この三つが機能しないと面白くないんじゃないのかな。大人の男性ももっとトータルにおしゃれを楽しんで欲しい。彼女を連れてコンサートに行くとか、生活を楽しむという意識を高めて欲しいですね。

最近いいなと思うのは、上通りをはじめとした横町にいいお店ができてきたこと。今は点としてでき始めたものが、そのうち徐々に面として発展していくと思うんです。そのときに独自のポリシーをもって街づくりをしていけば、必ず素晴らしい通りになっていくと思います。皆さんの感度も高いし、潜在的な欲求もあるはず。これからの動きに期待したいですね。

*コンセプト…概念、観念、考え。



おしゃれなチビっ子。
ちょっと気どって「ハイ、ポーズ！」